

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年12月2日

【評価実施概要】

事業所番号	0172901233		
法人名	有限会社 つながり		
事業所名	グループホーム つながり		
所在地	〒070-0825 旭川市北門町9丁目2644-36 (電話) 0166-55-9120		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年11月6日	評価確定日	平成21年12月2日

【情報提供票より】 (平成21年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 15年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 5人, 非常勤 6人, 常勤換算	6.64人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1~2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000・30,000 円	その他の経費(月額)	16,500~24,800 円
敷金	有 (円) <u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) <u>無</u>	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (11 月 6 日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 88 歳	最低 76 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	道北勤労者医療協会(旭川北医院、1条通病院)・丸山歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、平成15年に高齢者住宅からグループホームへ移行している。理念と10項目からなる「つながりのお約束」を玄関フロアに明示している。代表者と管理者が熱心に職員を指導し、良質なケアサービスの確保と向上を実践している。職員は利用者の尊厳を大切にされた支援を行っており、利用者や家族との信頼関係が構築されており、ターミナルケアにも対応し終の棲家として、その人らしく安心して暮らせるサービスを提供している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価での主な改善課題である利用者が持ち込んだ椅子や家具のリスクマネジメントについては、各居室を点検する中、利用者や家族と相談して、危険回避に取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価及び評価結果はスタッフ会議で討議してまとめている。運営者は評価の意義を職員に教育しており、項目ごとに取り組む状況を検証しながら、課題の抽出を行っている。評価結果における改善課題については事業所の方策を示しながら、利用者の安心、安全の確保に向け取り組んでいる。</p>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、事業所の運営及び利用者の暮らしぶりを報告している。会議の委員は利用者家族を含め、町内会会長はじめ地域の住民を中心に選任されている。委員から出された新型インフルエンザ対応やスプリンクラー設置などの意見、要望等についてはスタッフ会議で話し合い、検討を重ねて運営に反映させている。</p>
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>事業所だよりには利用者個々のお知らせ欄を設け、暮らしぶりや健康状態を知らせ、また職員は家族の来訪時や行事の際などにも意見や要望を表しやすい雰囲気配慮している。家族から出された意見や要望などは謙虚に受け止め、スタッフ会議で討議を重ね、ケアマネジメントや運営に反映している。玄関フロアには内部及び外部機関での苦情受付機関を掲示している。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>地域とは活動や行事を通じ、また毎日の散歩や外気浴時に住民と挨拶を交わし馴染みの関係ができており、季節の野菜や花をもらうなど日ごろから交流を図っている。事業所の向いの教育大学生の実習を受け入れ、さらには事業所2階のホールを地域に開放し、ボランティアによるコンサートを開催するなど、地域住民に事業所機能の還元もしており、これらの活動によって双方向の交流を実践している。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者は地域の中で最後までその人らしく、「生きていてよかった」と思える人生を目標とした理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関の見やすい位置に掲示し、分かりやすい言葉で「つながりのお約束」も明示している。また、スタッフ会議で事業所の目指す方向を話しており、理念を共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域とは行事や活動を通じ、また毎日の散歩時に挨拶を交わすなど馴染みの関係ができており、季節の野菜や花をもらうなど日ごろから交流を図っている。また、事業所2階のホールを地域に開放し、ボランティアによるコンサートを開催するなど事業所機能の還元もしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、評価結果はスタッフ会議で話し合いを行っており、自己評価及び外部評価のねらいや活用方法について理解を深める中、積極的に改善しサービスの確保と質の向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、事業所の運営及び利用者の状況を報告している。委員から出された、安心、安全の確認、新型インフルエンザの対応などの意見や要望等についてはスタッフ会議で話し合い、検討を重ねて運営に反映させている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談などで市へ出向いたり、市主催の学習会に参加するなどし、情報を収集している。今後もスプリンクラー設置に向けて幅広く行政との積極的な連携を目指し、サービスの確保と質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回発行している「つながり通信」は個別通信欄を設け、暮らしぶりを写真に収め、エピソードなども盛り込み、家族から好評を得ている。利用者家族の定期的な面会があり、その都度、金銭出納帳を確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内部及び外部機関の苦情相談窓口を重要事項説明書に明記しており、玄関フロアにも掲示している。また、職員は家族の来訪時や行事の際などにも意見や要望を聞くように努めている。さらに、家族から出された意見等を謙虚に受け止め、それらを運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は利用者と職員間の馴染みの関係を重視し、職員の離職を極力抑えるよう事業所としてできる限りの努力をしており離職は少ない。職員の交代がやむを得ない時には事前に説明等し、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員育成についての指針を基に具体化しており、月一回の内部研修では社会保障の歴史なども学び、また職員それぞれに応じて計画的な外部研修に参加できるよう勤務調整を行っている。研修内容を全職員が共有できるよう報告会を開催し、働きながらの技術と知識のスキルアップに力を注いでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は同業者との連携や交流の必要性を認識しており、日本認知症グループホーム協会やグループホーム協議会などに加盟している。職員が交代で研修に参加する中、情報交換の環境を整えながら、運営やケアサービスを向上させていく取り組みをしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用開始前に利用者や家族との面談などを行い、また、ティータイムを共に過ごすなど馴染みの関係作りに努め、無理なく利用できるような話し合いの場を持っている。さらに、本人や家族の状況に応じ個別の対応を心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々の暮らしの中で、利用者の想いや得意な分野を把握し、調理や掃除、縫い物、絵画など、共に生活する場面の構築に努めている。また、人生の先輩としての利用者から学ぶなどして、共に支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がどのように暮らし、何をしたいかを聞き取り、また利用者の発した言葉や表情などから希望や意向の把握に努めている。意思疎通が難しい場合は家族などから情報を得て、毎月スタッフ会議で検討し記録も残している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントはセンター方式を取り入れ、朝夕の申し送りや毎月のスタッフ会議で、独自のモニタリング表を活用し、適格にアセスメントしている。カンファレンスを重ね、本人の想いを中心に、家族の要望や協力病院の助言も聞きながら、介護支援専門員を中心にチームで計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には6ヶ月ごとに見直しているが、介護計画と照らし合わせ、現時点での状況とサービス提供課題をケア記録、ケア日誌、連絡ノート等で確認し、それらをもとにスタッフ会議で再確認している。状態に変化が生じた場合は速やかに本人や家族と相談し、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて通院、買い物、美容院などの外出時の付き添いなど柔軟な支援をしている。また、地域住民、サークル、保育園などにも2階のホールを開放し、交流の場となるサービスを展開している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院やそれぞれのかかりつけ医への受診可能な体制があり、通院対応も家族の要望に応じている。その際、同行した職員から必要に応じて受診結果の報告を行っている。また、看護師を配置しているため、利用者や家族はいつでも気軽に相談できている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当事業所では昨年、医療機関とのバックアップを基に終の棲家として医師や家族と連携し、職員一体となってターミナルケアを実践した。今後も重度化や終末期の利用者と家族を支えるために、看取りに関する指針を作成し、できる限りの支援に努めるような体制を整備している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「人生の大先輩・私たちの行く道」を合言葉に、利用者の日々の生活支援においては常に、尊厳を重視しプライバシーに配慮したケアに努めている。また「つながりのお約束」の中に、プライバシーの尊重と個人情報保護について、玄関の目につきやすい場所に掲示している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調やペースに合わせ、その人らしい生活が送れるよう個々人の生活リズムを大切にして、利用者の希望を中心に支援している。また、必要に応じて筆談をするなど、臨機応変に対応できるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で育てた豆や大根などの野菜を献立に組み入れたり、週2回の利用者のクッキング日等を設けている。さらにはアンケートを取るなど、食事が楽しみなものになるよう支援をしている。また、七草粥、ちらし寿司、おはぎづくりなど季節感も大事にしている。利用者が食事をする際の姿勢が良く、職員と一緒に和やかに食事を摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的には週3回となっており、利用者の希望を尊重している。外出や来訪客など、本人の希望やタイミングに合わせるなど、事業所のできる限りの範囲で楽しんで入浴できるよう支援している。また、利用者の状態に合わせて、清拭や足浴の支援もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活に潤いを求めて各種レクリエーションや本人の気持ち、能力を活かした場面作りのため、スタッフと一緒に掃除や調理をしたり、ガーデニング、野菜づくりなどを支援をしている。また、音楽療法やバイオリン、フルート等のコンサートを施設内で行い、利用者が楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	心身の活性化に繋がるよう、午前には毎日のように散歩や外気浴を行い、買い物や個別ランチなどの支援もしている。また、全体での外出行事や地域住民との関係性を育む内容の外出も積極的に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵を設置しておらず、利用者の外出を見逃さないよう細心の注意を払っている。日中は玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害計画に従い、年2回の訓練を運営推進委員や家族、地域住民の参加の下に行っている。消防署の協力を得て、AEDの使用方法も含めた救急救命講習会を繰り返し実施し、緊急時への対応にも努めている。また、今年度にはスプリンクラーの設置を予定している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のアドバイスを受け、バラエティに富んだ献立を作成している。利用者の嗜好や身体状況などに考慮し、代替え品や粥食、刻み食などを提供している。また、食事や水分摂取状況は毎日のチェック表に記録し、職員間で共有化している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングと畳を施したセミ・パブリックスペースが一体となった空間は、利用者と職員がゆったりと過ごせる広さがあり、趣味やストレッチなどを思い思いに行っている。光はブラインドで調整しており、花や観葉植物、絵画などで落ち着いた家庭的な雰囲気となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には防音シートを入れており、隣室の音が気にならずトイレ、キッチン、洗面台等を設置している。ゆったりとしたスペースには生活スタイルに合わせて、冷蔵庫や電話、タンス、仏壇など持ち込んでおり、安心できる生活環境を整えている。		

※  は、重点項目。